

北海道上磯高等学校

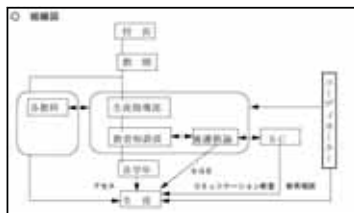
課程 全日制
 学科 普通科
 生徒数 190名

1 取組の特徴

- 1 コーディネーターの活用～校内研修と生徒への集団カウンセリング
- 2 教育相談体制の充実～スクールカウンセラーとの連携、コミュニケーション教室の実施
- 3 教職員の意識高揚と実践力の向上～本校教職員自らが企画する研修会や直接生徒へ指導する機会の増、総合的な学習の時間を活用した計画的・組織的な実施

2 取組のねらい

- 1 コーディネーターによる生徒へのトレーニングに加え、日常的な教師のアプローチにより、コミュニケーションスキルの育成を図る教育活動を推進する。
- 2 各学年でアセスを定期的の実施し、生徒の実態をきめ細かく把握するとともに、支援を必要とする生徒の早期発見と学級満足度を高める学級経営について研鑽に努める。



3 取組の経過

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 4月 <ul style="list-style-type: none"> ステップアップ・プログラム年間計画の検討と職員への周知（職員会議） 他者理解を中心とした構成的グループエンカウンター（SGE）による「学級開きエクササイズ」の実施（1・2年生対象） 5月 <ul style="list-style-type: none"> 第1回学級環境適応調査（アセス）の実施（1～3年全クラス） 6月 <ul style="list-style-type: none"> 第1回のアセスの結果分析をテーマに校内研修会の実施 全教職員による教育相談の実施（1年生対象、2日間） | <ol style="list-style-type: none"> 8月～1月 <ul style="list-style-type: none"> アサーショントレーニングを中心としたコミュニケーション教室の開催（希望者対象・月1回・放課後）11月 他者理解、自己理解を中心としたSGEの実施（1年生対象） 進路を意識したSGEの実施（2年生対象） 12月 <ul style="list-style-type: none"> 第2回学級環境適応調査（アセス）の実施（1、2年生対象） 1月 <ul style="list-style-type: none"> 第2回のアセスの結果分析 2月 <ul style="list-style-type: none"> ステップアップ・プログラム年間計画の成果の検証 |
|--|---|

4 取組の内容

- 1 校内研修の実施（第1回アセスの結果分析）
 - (1) 実施日
平成23年6月6日（月）（前期中間考査の1日目）
 - (2) ねらい
ア 生徒の状況について、全教職員の共通理解を図る。
イ 当該生徒や学級についての指導・支援方針と具体的方策について、全教職員の共通理解を図る。
ウ アセスの活用する方法について理解する。



校内研修会でアセス分析

(3) 成果と課題（○が成果、●が課題）

- 個々の生徒の学級内での相対的な位置や性格、生活状況、現時点で抱えている問題のほか、生徒への積極的な声がけや学級内での観察等、具体的な支援について検討し、全教職員の共通理解を図ることができた。
- 各学級の特徴や学級全体の傾向を把握し、各学級担任の学級経営や、各教科担任の授業の際の留意点、学級担任のフォローの仕方等、研修結果の積極的な活用を図ることができた。
- 各学級における適応満足感に対応したアサーション・トレーニング、構成的グループエンカウンター等の効果的なエクササイズについて、コーディネーターの意見を参考に検討するとともに、さらに研修を深める必要がある。

2 進路を意識したSGE

- (1) 実施日
平成23年11月18日（金）5校時～2年A組、6校時～2年B組
- (2) 対象学年
2学年
- (3) ねらい
就職活動や入社試験の現状を理解させ、進路意識を高揚させるとともに、高校生活の中で今から準備できることを実行し、生活改善を図る。
- (4) 内容



コーディネーターによるSGE

- 「人事部人事課採用係」と題し、書類からイメージされる人物像をもとに、採用する側の立場を疑似体験することで得られる気付きを、生活改善や進路意識の高揚へとつなげる構成的グループエンカウンター（SGE）
- (5) 成果と課題（○が成果、●が課題）
 - 振り返りシートで「今から準備できること」について、「欠席・遅刻をなくす」「資格を取る」など、ほとんどの生徒が具体的に記載するなど、平素の学校生活での心構えとともに、進路意識は高めることができた。
 - 履歴書を活用したエクササイズは基本的な生活習慣の確立や高校での学びの動機の一助となることから、入学後早期の実施について、検討する必要がある。

5 次年度に向けて

- 1 成果
ステップアップ・プログラムを導入した平成21年度から中途退学者は減少傾向を見せ、特に、1年生前期（4月～9月）において、平成21年度の4.7%から、平成23年度は2.5%と減少した。また、見学旅行への参加率が平成21年度の80.4%から、平成23年度は86.4%に高まるなど、学校行事等における生徒の参加意欲が高まった。
- 2 課題
 - (1) 校内組織の継続
研究指定終了後もこれまでの実践を組織的・計画的に行っていく必要がある。
 - (2) トレーナーの育成
今年度はコーディネーターと連携した養護教諭がトレーナーとなり、学級開きSGEを初めとする各種プログラムを実施したが、トレーナーに頼りがちな傾向にあった。
 - (3) 各取組の効果的活用法の研究
学級開き、キャリアカウンセリング、アセス、1年生カウンセリング、SGEなど、実践した様々な取組を効果的に活用する方法について研究し、内容の充実を図る必要がある。
- 3 次年度に向けて
 - (1) 校内組織の確立
ステップアップ・プログラムを担当した生徒指導部内の教育相談係を中心に、教務部や進路指導部も含めたプロジェクトチームを編成し、年間指導計画の充実を図る。
 - (2) 教職員のスキルアップ
校内研修の充実を図り、コミュニケーションスキル育成トレーニングを実践できる教員を育成する。
 - (3) 「言語活動の充実」を意識した日常的な教育活動の充実
各取組を関連させ充実を図るため、「言語活動の充実」を柱に据えた日常的な教師の指導による、コミュニケーションスキル育成を意識した教育活動を推進する。